第２学年１組　国語科学習指導案

授業者：比嘉　優志

単元名：「走れメロスの読みを読み取ろう」（本時：４/８時間）

【生成 AI の活用】

① 「走れメロス」で、ディベートを行う授業をする。議題をもう一つ用意したいので Gemini に相談

Q：「走れメロス」の教材で、ディベートを行う。
一つは、「物語の中で一番苦しい思いをしたのは、メロス・セリヌンティウス・ディオニスの誰か」という議題で行う。
さらに、もう一つ少しレベルの高い議題を生徒に提示したいのだけど、良い案はないか。

Ａ：議題案：現代社会のチームを、最も『良い方向』へ導くのは誰か？
～学校の部活動や将来の社会で、最も求められる「人間性」の持ち主を１人選ぼう～
○メロス（情熱と行動力のイノベーター）
○セリヌンティウス（誠実と圧倒的信頼の現場リーダー）
○ディオニス（規律とリスク管理の統治者）

② Gem を活用し、生徒が壁打ちしながら、ディベートの内容を添削できる AI を生成。

「走れメロス」本文、授業プリントを読み取らせ、AI が生徒に対し、メロス・セリヌンティウス・ディオニスのどちらかの立場で主張を行う。生徒がその主張に対し、反論を打ち込むと、AI が反論の内容に対し、アドバイスをする。なお、主張・反論以外の質問には答えないように設定している。

【単元計画】　（全８時間、本時：４時間目）

	時数	学習活動・内容
導入	1	「走れメロス」を読み、大まかな内容と登場人物の人物像を理解する。
	1	ディベートのルールを確認して、登場人物の「苦しみ」を理解する。
展開	1	本文の描写をもとに班の立場で主張を作る。
	1	他班の主張を予想し、反論を考え、自分の意見を強化する。
	1	反論に対する反駁を考え、パネルディベートに向けて準備する。
	2	パネルディベートする。
終末	1	作品のキーワードについて読み解き、物語を深く理解する。

【本時案】

単元目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉えている。	本文を読み、他者の考えを聞きながら、自分の考えをよりよいものに調整しようとしている。

単元を貫く学習課題	「走れメロス」の登場人物の人物像を読み取り、討論テーマに沿った主張や反論を、文章を基に考えて、パネルディベートに取り組もう。
本時の主眼	反論を考える活動（生成 AI (Gem)）を通して、登場人物の設定の仕方、比較をすることで、メロス、セリヌンティウス、ディオニスの人物像について新しい読み取り方をすることができる。【思考・判断・表現】
準備	□　学習プリント　　□　タブレット（生徒、教師）　　□　電子黒板 □　Ｇｅｍ（走れメロスディベート練習）

過程	学習活動・内容	手立て（○）評価（◇）	形態	配時
導入	1　本時の学習の見通しをもつ。 ・前時までの学習の確認 学習課題　「走れメロス」を題材にパネルディベートをしよう。 めあて　主張に対する反論を考え、自分の意見を強化しよう。	○　本時の学習の見通しをもたせるために、三角ロジックに使って、反論を作る過程をイメージさせる。	一斉	10
展開	2　他班の主張を予想する。 ・心情描写、情景描写をもとにした人物像 生成 AI の活用 主張の予想例 メロス：肉体的苦痛と精神的苦痛が両方あるのはメロスだけである。 セリヌンティウス：メロスには選択の自由があるが、セリヌンティウスには待つという行為しかできない苦しさがある。 ディオニス：ディオニスは国を統治する立場で、誰も信用できない孤独の辛さは図り知れないものがある。	○　活動が円滑に行われない班がある場合は参考にさせるため、Gem を使って主張の予想の参考にするように助言する。	個人 ↓ 班	10
	3　提示された主張に対する反論を考える。 ・登場人物の設定の仕方 ・登場人物の比較による人物像 話し合い活動 予想される反論例 ○メロスは肉体的苦痛、精神的苦痛の両方あると言うが、妹の結婚式での行動や一度諦めたところから、そこまで苦痛が大きいとは言えないのではないだろうか。 ○ディオニスは孤独が辛いと言うが、ディオニスはメロスを待っていたことも読み取れ、期待ももっているため、そこまで苦しいと言えないのではないか。	○　反論を考えるために、予想した主張の「苦しみ」に着目し、登場人物の描写を抜き出す。その上で、反論に厚みをもたせるために、理由付けには自分の経験を書くと良いことを例示する。	班	10
	4　考えた反論を Gem に打ち込み、AI のアドバイスをもとに反論を添削する。 生成 AI の活用　話し合い活動	○　効果的な反論を考えさせるために、Gem の活用を促し、反論を遂行させる。また、繰り返し Gem へ入力させることで推敲を重ねさせる。 ◇　登場人物の比較をした上で、他班の主張に対して反論を学習プリントに書くことができている。（学習プリント記述）	班	10
終末	5　本時の学習を振り返り、人物像の読みを深めるために何をしたら良いかを考える。 ・考えた反論の共有 ・学習の振り返り まとめ〈振り返り例〉 効果的な反論を作るには、テーマについてそれぞれを比較し、どのように人物の設定がされているかを捉えるとよい。	○　次回の学習活動に繋げさせるために、反論の共有を通して、ディベートで持つべき視点を説明する。	全体 ↓ 個人	10